

売立目録猿猴図版の類型分類の決定と作家別・主題別目録索引の作成
都 守 淳 夫(犬山市・愛知)

平成 11 年度の主な研究経過を下に列挙する。

【売立目録猿猴図の主題別分類索引の作成】

森狙仙と円山応挙の作品、および猿猴捉月図の分析から試案した類型区分表にもとづき、狩野派作品(とくに狩野探幽と常信の)作品カードから主題別分類に着手した。この索引は将来一括して、図録『売立目録猿猴図主題分類一覧』の目次索引に供せられる内容をもつ。

【分類検索カード複製の追加作成】

売立目録猿猴図版の簡易複製(ゼロックカード 1500 枚)を追加作成して階層分類作業の能率化を計った。

【猿猴図の模本および真蹟情報の収集】

売立目録掲載の図版は、あくまで文化史料であり作品そのものではない。売立目録図版の正しい評価や理解には、いわゆる「タイプ標本」にも類される原作の模写本や真筆の情報収集が不可欠である。本年はとくに東京国立博物館と東京芸術大学の各資料館に所蔵される、明治以後の古美術鑑賞図鑑や古美術雑誌に掲載された猿猴図版と紹介記事と論文の収集に努めた。

【『売立目録の書誌と所在一覧』の刊行】

これまで「売立目録」総目録の刊行は望まれながらも企画されたことがなかった。猿猴図版の収集過程で作成された「全国売立目録データベース」より参考書誌『売立目録の書誌と全国所在一覧[86 機関、4,336 種冊、延べ 22,491 冊]』(東京・勉誠出版社、1200 頁、発刊は本年末の予定)を上梓した。

フサオマキザルにおける採食場面での嗅覚手掛かりの利用
上野吉一(北海道大・実験生物センター)

新世界ザルの 1 種であるフサオマキザルは、食物に関連した匂い(果実臭)に関連しない匂い(腥臭)に比べより容易に識別することが知られている。また、摂食場面では、視覚手掛り(色ないし形)よりも嗅覚手掛りにより強く依存することが知られている。そこで、今回は自然な採食場面での嗅覚手掛りをどのように利用するかを、文脈(探索、摂食場面)の違いをもとに分析をおこなった。フサオマキザル(成獣オス 3 頭)に、2 つの匂い(グアヴァとキュウリ)の弁別学習を人口ナッツ(強化子 - 果実 - が入ったカプセルで、特定の方法でのみ開けることができる)を用い訓練した。グアヴァ臭のナッツにはリンゴを(S+)、キュウリ臭のナッツにはカブサイシン(辛味: 500ppm)に浸漬したリンゴを入れた。この結果 1 頭のみが、まずナッツを開け匂いを嗅ぎ弁別することを学習した後、ナッツを開けることなく匂いで弁別することを学習した。しかし、他の 2 頭は最初の段階で留まった。これらの結果は、文脈(探索、摂食場面)の違いにより、匂いの弁別手掛りとしての働かないし学習のしやすさに差があることを示唆する。